

評議会だより

第四五〇回評議会

平成四年一月二〇日(火)

(教員選考報告)

学校教育学部

助教授 古川義宏(理科教育)

医学部

助教授 鈴木 衛(耳鼻咽喉科学)

医学部附属病院

講師 河野道生(内科)

歯学部附属病院

助教授 名原行徳

(特殊歯科総合治療部)

工学部

教授 寺西靖治(地域環境工学)

// 山下英生

(回路・システム工学)

生物生産学部

助教授 田中秀樹(食糧管理学)

// 中野宏幸(衛生微生物学)

以上の報告があった。

(報告)

一 秋季中国・四国地区国立大学長

会議について

一〇月二十九日、三〇日に本学で

開催された標記会議の概要につい

て報告があった。

二 平成六年度における入学者選抜

第二次試験の実施方式・日程等について

各部局の検討結果に基づき、国立大学協会に回答した旨の報告があった。

三 大学設置基準等の改正に伴う学部の教育の整備について

教務委員会における検討状況について報告があった。

モニターから・編集者から (24期2号)

表紙については、野暮ったいという主旨のご意見と、落ち着いていて好感がもてるという主旨のご意見を半々くらいずつ頂き、功罪相半ばすというところであった。また、写真を入れた方がよいというご意見を相変わらず多く頂いた。内容については、以前より読みやすくなったという褒めの言葉も頂いた。

特集記事について

◆教職員から・下宿が足りなくなつた根本の理由をもっと明確に表現しても良いのではないか/タイムリーな企画でよかったが、学生部長の

(議事)

一 入学及び編入学等を許可すべき者の選考手続を変更するための関連規程の整備について

原案のとおり承認した。

二 広島大学原爆放射能医学研究所

協議会規程の改正について

原案のとおり承認した。

三 広島大学長選考規程実施細則の改正について

各部局で検討の上、次回の評議会に諮ることとした。

たというご意見と同時に、「難しい専門用語が多く読みづらかった」、「書かれた内容が表題からイメージするものと違うのでは」というご意見も頂いた。

留学生の眼については、「対談形式などを取り入れれば本音が聞けるのではないか」という建設的なご意見を頂いた。

今後に期待する記事などについては、「学生の主張なども載せ、もっと学生に身近なものにすべきである」、「『大綱』後の各部局での取り組み等を紹介してほしい」、「学生への配布方法に改善がみられない」というようなご意見を頂いた。今後、頂いたご意見を肝に命じ、よりよい広報誌にするようさらに努力したい。

二四期二号のモニターにあたり、一人の教職員の方から率直なご意見を頂いた。次にその全文を掲載する。

本紙の印象

表紙の色・デザインとも、一言で言えば「前時代的」と言うことでしょいか。もう少し現代的なセンスを取り入れて、改善する余地はあるのではないのでしょうか。

全体の構成について一番目に付くのは、それぞれの記事区分(特集、フォーラム、留学生の眼...)が、ど

こから始まったのが極めて分かりにくいということです。読み進んで行くと、いつの間にか区分が変わっていった、というのが正直なところ。逆に言えば、記事の内容と区分の間には、強い相関は存在しなかったということでしょう。元来記事の区分というものは、概念区分を与えることにより、編集側の編集意図を示すのが一つの目的だと思いますので、その点が不明確なために、全体として、記事の寄せ集め的な散漫な印象を受け、冊子の編集意図がよく分かりませんでした。

もっとも、原稿の自由投稿(?)が基本になっているようですので、この冊子にそこまでのものを期待すべきではないのかもしれませんが...

「特集記事」について

モニターの趣旨とはやや異なるのでしようが、記事を読んだ感想を述べさせてもらえば、「下宿問題」と言う様な基本的且つ分かりきった問題が、何故今頃問題になり大騒ぎしているのか理解に苦しみます。居住場所がなければ途端に困ることは分かりきった話ですから、この様な基本的な課題については、事前にきちんと見直し(通一遍ではなく実行レベルを踏まえての)を付けてから事を進めるべきかもしれません。